

第19回 再生普及推進のための連携チーム会合

日時:令和6年11月21日(木)10:00~11:30

場所:釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

----- 議 事 -----

1. 小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況について
2. 再生普及行動計画の評価について
3. その他(各小委員会からの提案・連絡事項)

----- 配布資料一覧 -----

- 資料1 小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況
- 資料1-2 参加者アンケート集計結果
- 資料2 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価について(案)
- 参考資料1 評価指標に基づく第4期計画期間における概況、取組み状況
- 参考資料2 釧路湿原国立公園のストーリーとの連携について

第19回 再生普及推進のための連携チーム会合出席者名簿(敬称略)

< 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会 委員長代理	新庄 久志

< 小委員会事務局 >

機関名 [担当小委員会]	出席者
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [湿原再生、旧川復元、水循環、土砂流入、地域づくり]	治水専門官 嵯峨井 聖貴 技官 後藤 裕二 主任 廣瀬 明子
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 [森林再生、湿原再生]	滞在環境整備専門官 萱島 拓郎 専門官 瀬川 涼
林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター [森林再生]	所員 角田 和久 所員 美濃部 ゆず
北海道 釧路総合振興局 釧路建設管理部 [土砂流入]	主査(河川) 渋田 謙治

< 事務局 >

機 関 名	出席者
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 [再生普及]	自然保護官 境 耕平
公益財団法人北海道環境財団 (再生普及行動計画オフィス)	企画事業課長 山本 泰志 企画事業課 安田 智子

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 再生普及推進のための連携チーム名簿(敬称略)

<専門家>

高橋 忠一 (再生普及小委員会 委員長)

新庄 久志 (再生普及小委員会 委員長代理)

<協議会事務局>

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
[湿原再生、旧川復元、水循環、土砂流入、地域づくり]

環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
[湿原再生、森林再生、再生普及、地域づくり]

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター [森林再生]

北海道 釧路総合振興局 釧路建設管理部 [土砂流入]

北海道 釧路総合振興局 産業振興部 [地域づくり]

北海道 釧路総合振興局 保健環境部

さっぽろ自然調査館

<その他>

※ 委員長の判断により必要に応じて関係者に出席を要請する。

小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況

6月から10月の期間中、自然再生協議会各小委員会が実施した市民参加の取組みは以下のとおり。

主催	イベント名	開催日
湿原再生小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)	「幌呂地区湿原再生」観察・体験会	7月20日(土)
水循環小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)	「水・物質循環」現地見学会	10月26日(土)
土砂流入小委員会事務局 (釧路建設管理部治水課)	第10回 久著呂川 自然再生 見学ツアー	8月21日(水)
森林再生小委員会事務局 (釧路湿原森林ふれあい推進センター)	第1回「雷別ドングリ倶楽部」	6月25日(火)
	雷別へ植樹に行こう Yo!	6月29日(火)
	第2回「雷別ドングリ倶楽部」	9月25日(水)
	企業と連携した広葉樹の森林づくり	9月28日(土)
再生普及小委員会事務局 (環境省釧路自然環境事務所)	市民講座 釧路湿原の『すごい!』を体験しよう はじめての釧路湿原!	10月26日(土)

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年7月20日（土） 8：30～15：00

場所：阿寒郡鶴居村字下幌呂

行事名：「幌呂地区湿原再生」観察・体験会

主催者：湿原再生小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：16名

取組の概要

釧路湿原では、過去に損なわれた湿原環境を取り戻す取組である「釧路湿原自然再生事業」が行われています。その一環である、未利用地を湿原に再生する鶴居村幌呂地区の湿原再生現場において、地域住民の皆さんに事業実施後の植生の見学や、湿原の魚類の観察、泥炭の観察、湿原を代表する植物であるヨシの移植体験、ハンノキ環状剥皮（巻枯らし）に参加していただき、自然再生事業への理解を深めていただきました。



泥炭の観察

泥炭がいかにか多くの水分を含むことができるのか、実際にさわって重さを確認。



ヨシの移植 穴を掘りヨシの苗を移植しました。泥炭の地面は植物が分解されず堆積して圧縮され、穴を掘る作業もなかなか大変です。



環状剥皮 増加したハンノキを枯死させるために樹皮を剥ぐ作業。きれいに剥がせています。

主催者の感想

今年で12回目となった「幌呂地区湿原再生」観察・体験会は、高温多湿の中での開催となりました。体力的に大変な作業もありましたが、参加者からは「湿原を再生することの大変さを学んだ」「これまでに植えたヨシの生育を見ることができた」「説明を受けてから実際に体験でき、とても有意義でした」など、好評の声をいただきました。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年10月26日（土） 8:30～16:00

場所：標茶町二本松地区、鶴居村キラコタン岬、雪裡川

行事名：「水・物質循環」現地見学会

主催者：水循環小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：19名

取組の概要

釧路湿原が形成し維持される仕組みについて、地域住民に学んでいただく「水・物質循環」現地見学会を開催しました。

午前中は釧路川沿いの二本松地区で、むき出しになった地層を見学し、釧路湿原の成り立ちについて学習しました。その後、釧路湿原の北に位置するキラコタン岬で、約5kmの遊歩道を歩きながら、湿原を流れる川や湧水、植生などを見学し、釧路湿原の地質構造や水の循環、土砂の流入について説明を行いました。キラコタン岬は、天然記念物の指定地域及び釧路湿原国立公園の特別保護地区に区分され、立ち入りには許可が必要であるため、参加者の皆さんには貴重な体験となりました。

午後はタンチョウ撮影ポイントとして人気の雪裡川音羽橋で、UAVによる上空からのライブ映像を視聴し、ハンノキ林の分布状況の変化について解説を行いました。

その後は新釧路川右岸堤防でエゾシカの群れやタンチョウ、湿原独自の植生などを車窓から見学し、川の水を調整するために建設された横堤で、過去の洪水や堤防の役割について説明を行いました。

どの見学場所でも、参加者の皆さんは大変熱心に説明に耳を傾けていました。



二本松地区露頭で、地層の形状から湿原の成り立ちを説明。



キラコタン岬から湿原深部を展望。



UAVによる音羽橋上空からのライブ映像を体験。

主催者の感想

当日は晴天に恵まれ暖かく、澄んだ空気の中40分ほどかけて歩いたキラコタン岬では、湿原深部の壮大な景観を見渡すことができました。参加者の皆さんからは、「釧路湿原のいろいろな役割を知ることができた」「専門的な説明と立入禁止区域での見学がとても貴重な体験」「ドローンを使用した雪裡川の映像が興味深かった」など、たくさんの好評の言葉をいただき、大変充実した見学会となりました。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年8月21日（水） 9：00～16：00

場所：久著呂川の土砂流入対策箇所等（鶴居村・標茶町）

行事名：第10回 久著呂川 自然再生 見学ツアー

主催者：土砂流入小委員会事務局（釧路建設管理部治水課、釧路開発建設部治水課）

参加者人数：9名

取組の概要

久著呂川の上流、中流、下流を順番に巡り、自然再生の取り組み（久著呂川の土砂対策）を学ぶ“久著呂川 自然再生 見学ツアー”を開催しました。

久著呂川 自然再生 見学ツアーは、釧路湿原への土砂流入対策の取組や水辺環境の回復状況について、見学・体験するツアーです。

上流域では、魚類や水生昆虫を観察しながら自然の状態に近い河川の特徴を理解して頂きました。

河道の安定化対策を実施した区間では、胴長を着用して川に入って箱メガネ、タモ網を用いて川の中を泳ぐ魚類の観察、底生生物の捕獲を行う等、水辺環境の回復状況を体験し、対策の効果を実感して頂きました。

その後、水辺林・緩衝帯の初の取り組みとして、苗ポットの作成を体験しました。最後に、下流域の河川沿いの土砂調整地、排水路合流部沈砂池、湿原流入部の土砂調整地の整備状況、土砂の堆積状況を見学しました。



主催者の感想

上流域の未改修の水辺環境の特徴を学んで頂き、その後、中流域における取組の説明を行い、魚類などの観察や底生生物の捕獲等を体験し、対策の効果を実感しました。このことによる効果を感じて頂きました。

移動中の車内や、見学箇所の説明を通して、久著呂川の土砂流入対策について理解を深めて頂きました。

参加者のアンケート結果より、見学ツアーの満足度が高く、今後も釧路湿原の保全や再生活動に関わりたいという意見が多いことが分かりました。特に、今回実施した苗ポット作成体験により、引き続き、水辺林・緩衝帯の取り組みに参加したい意見もありました。

今回も初参加者が多く、見学ツアーは、久著呂川の土砂対策事業の普及啓発を行う上で、重要な取り組みの一つであると考えています。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年6月25日（火）9：00～16：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：第1回「雷別ドングリ倶楽部」

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：18名

取組の概要

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、笹地となった箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月から森林再生等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。

今回は雷別地区自然再生事業地の笹地10で、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計70本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。



植樹の様子



保護管組立ての様子



保護管設置の様子

主催者の感想

今年度から新たに参加する会員の方が6名いましたが、ベテランの会員の方々から手ほどきを受け作業を行い予定していた活動を無事、終了しました。

参加者からは、「ふれあいセンターの方から、森林や樹木の話聞いて良かったです。今日、植えた木の名前も覚えることができました。」や「苗木が無事育ってほしい。また、参加したい。」等の声があり、森林再生の取組みの理解を深められて意欲をより高めていただけたようです。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年6月29日（火）9：00～16：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：雷別へ植樹に行こう Yo！

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：4名

取組の概要

この活動は、地域住民から参加者を募集し「植樹」等を通じて、森林再生への理解を深めていただく目的で実施しました。

当日は午前中に雷別地区自然再生事業地の笹地 10 で、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計 30 本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

午後からは、別寒辺牛川の中流に位置するパイロットフォレストに移動し、望楼（高さ約 24m）から林内を眺望しました。



植樹されたキハダ



保護管組立ての様子



望楼と参加者

主催者の感想

植栽箇所は笹の根が多い箇所ので、参加者は植穴を耕すのに苦労されていたようです。

パイロットフォレストでは、当時の造成過程等の説明を受けながら望楼の最上階を目指し、最上階ではゆっくりと景観を楽しんでいる方、記念撮影をされている方、当センター職員へ積極的に質問をされている方等、それぞれの方々が望楼での体験を満喫されていたようです。

参加者からは、「来年も参加したい」との声があり、当日は天候にも恵まれ、地域住民の皆様と広葉樹の森林づくり等を通して、森林再生への理解を深めていただくことができ有意義な活動となりました。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年9月25日（水）9：00～16：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：第2回「雷別ドングリ倶楽部」

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：20名

取組の概要

本年度第2回目の「雷別ドングリ倶楽部」は会員20名が参加し、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計90本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。



植樹の様子



保護管組立ての様子



保護管設置の様子

主催者の感想

会員の方々は手際良く植樹を進められたことで、予定より早く作業が終わりました。また、あちらこちらで雑談する様子も見られ、会員同士の交流がより深まった一日となりました。

参加者からは、「エゾシカだけではなく、ノウサギの食害にも注意を払う必要があるんですね。勉強になりました。」や「来年も植樹に参加したいと思います。」等の声があり、森林再生の取組みの理解を深められて意欲をより高めていただけたようです。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年9月28日（土）9：00～12：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：企業と連携した広葉樹の森林づくり

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：17名

取組の概要

この取組みは、札幌に支店を置く企業等が社会貢献活動の一環として当センターと連携し、森林再生の取組みを行っているもので今回が第7回目となります。

前日の雨で当日は天候が心配されましたが、ミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計110本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため、生分解性の保護管（ツリーシェルター）で被覆し今回で累計1000本を超える節目となりました。



植樹の様子



植樹説明と保護管組立ての様子



集合写真の様子

主催者の感想

参加者の方々は植樹班と保護管の組立て班に分かれて活動し、これまでの参加者が多いこともありスムーズに作業が進み予定時間より早く終了しました。

参加者からは、「貴重な経験ができた。」「植樹した全景は壮観だった。」等の声があり、植樹箇所の風景を写真に収めている方もいました。

来年度以降も企業と連携して、広葉樹の森林づくりを検討したいと考えています。

市民講座実施報告書

日時：令和6年10月26日（土） 10:00～12:30

場所：釧路湿原右岸堤防南側湿原（鶴居村温根内）

行事名：市民講座 釧路湿原の『すごい！』を体験しよう はじめての釧路湿原！

主催者：再生普及小委員会事務局（環境省釧路自然環境事務所）

参加者人数：9名

取組の概要

一般市民の方に釧路湿原の価値や魅力を改めて知っていただく機会として開催しており、今年度は釧路湿原右岸堤防南側湿原を訪問しました。

普段は立ち入ることのできない湿原内部に立ち入り、湿原におけるハンノキの機能、蛇行する河川の機能、湿原の中核であるヨシ・スゲ湿原、雨水に涵養されるミズゴケ湿原について実際に調査体験をしながら学びました。



事前レクチャー



水質調査体験



ミズゴケ湿原での解説

主催者の感想

ビジターセンター等では、湿原について詳しく学ぶことができます。しかし、フィールドに踏み出して、その場で専門家の方のお話を聞くことに勝るものはありません。例年に引き続き、今回の講座でも、参加者の皆さんは、楽しく、釧路湿原の多くの魅力と価値を体感することができたはずで、アンケートでは、「体験⇔学校教育（教科学習）とのつながりの面白さ」というフィードバックをいただいております。市民講座又は観光と教育との連携可能性が示されたように思います。

参加者アンケート集計結果

- アンケート配布行事数：6 行事
- アンケート回収数：74 名分

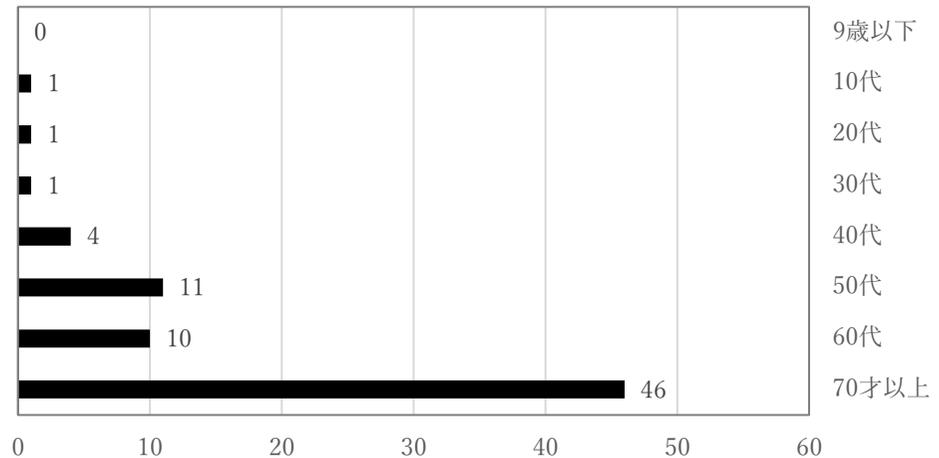
※行事名称の略称は以下のとおり

- 幌呂見学会：幌呂地区湿原再生現地見学会
- 久著呂見学会：久著呂川自然再生見学ツアー
- 雷別植樹：雷別へ植樹に行こう Y O !
- 雷別ドングリ：第 1 回「雷別ドングリ倶楽部」
- 市民講座：釧路湿原の「すごい！」を体験しよう
- 水循環見学会：水・物質循環現地見学会

設問 1. あなたの年齢を教えてください（選択式）

○参加者の年代（左表：各行事別の集計値、右図：回答項目別の 6 行事合計値（単位：人）以下同）

参加 行事 年齢	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
記載無	0	0	0	0	0	0
9 歳以下	0	0	0	0	0	0
10 代	0	1	0	0	0	0
20 代	0	0	1	0	0	0
30 代	0	0	0	0	1	0
40 代	0	2	0	0	1	1
50 代	1	3	0	2	2	3
60 代	3	0	1	1	4	1
70 才以上	12	3	2	15	1	13
回答者数	16	9	4	18	9	18

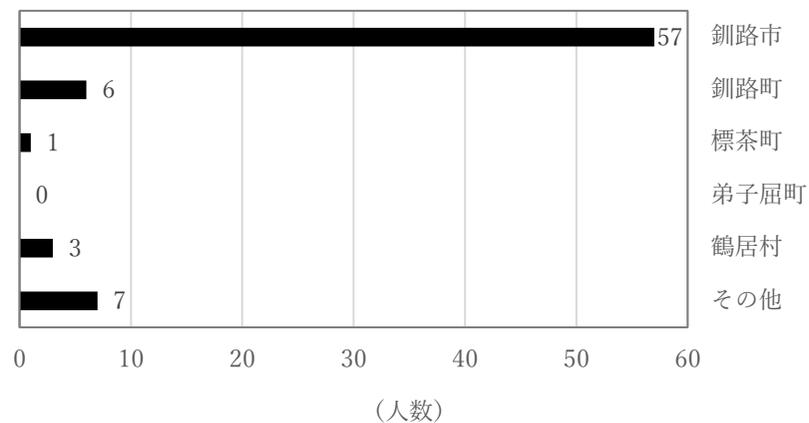


設問2. あなたのお住まいを教えてください（選択・記入式）

参加者の居住地

参加 行事 居住地	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
釧路市	11	5	4	16	7	14
釧路町	1	1	0	2	1	1
標茶町	0	0	0	0	0	1
弟子屈町	0	0	0	0	0	0
鶴居村	0	1	0	0	1	1
その他	4	2	0	0	0	1

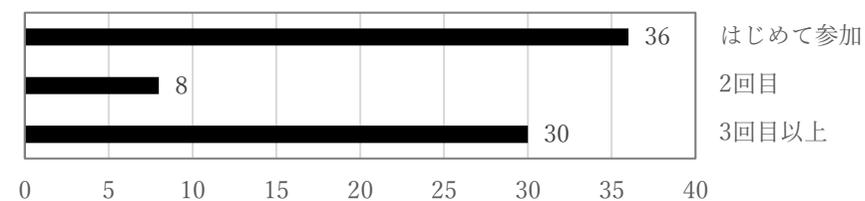
※その他内訳：千葉県（4）、栃木県（2）、帯広市（1）



設問3. 今回参加された行事への参加回数を教えてください（選択式）

○当該行事への参加歴（各行事集計値）

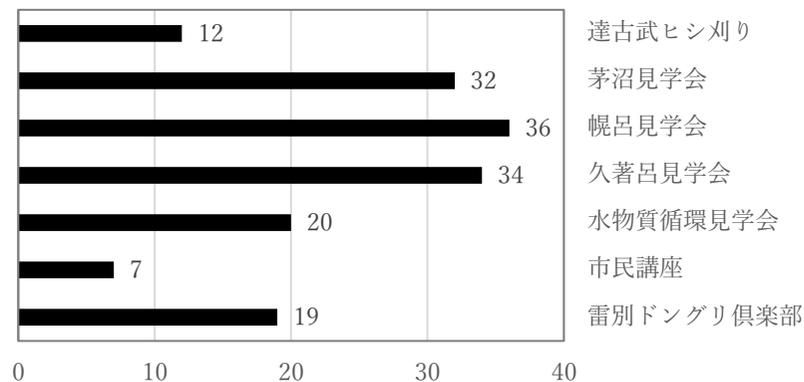
参加 行事 参加歴	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
はじめて	2	6	2	6	9	11
2回目	3	0	0	0	0	5
3回目以上	11	3	2	12	0	2



設問4. 自然再生協議会が実施する（今回参加した行事以外の）行事に参加したことがありますか（選択式・複数回答）

○他行事への参加経験

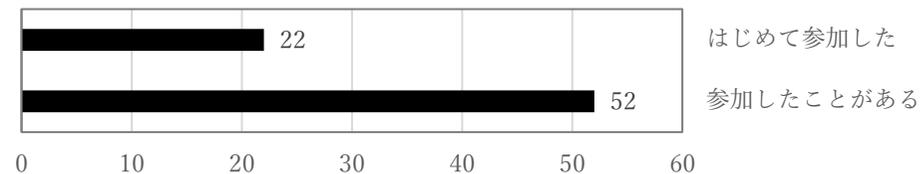
参加経験がある行事	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
達古武ヒシ刈り	6	0	0	4	2	0
茅沼見学会	13	3	1	7	2	6
幌呂見学会		4	1	8	3	6
久著呂見学会	11		3	8	3	9
水物質循環見学会	8	2	1	6	3	
市民講座	0	2	1	3		1
雷別ドングリ倶楽部	5	2	2		0	3



《参考》設問3. 4. の回答結果より、【釧路湿原自然再生協議会が実施する行事への参加経験】を集計

○自然再生協議会主催行事への参加経験

参加行事 参加歴	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
はじめて参加した	1	4	1	5	4	7
参加したことがある	15	5	3	13	5	11

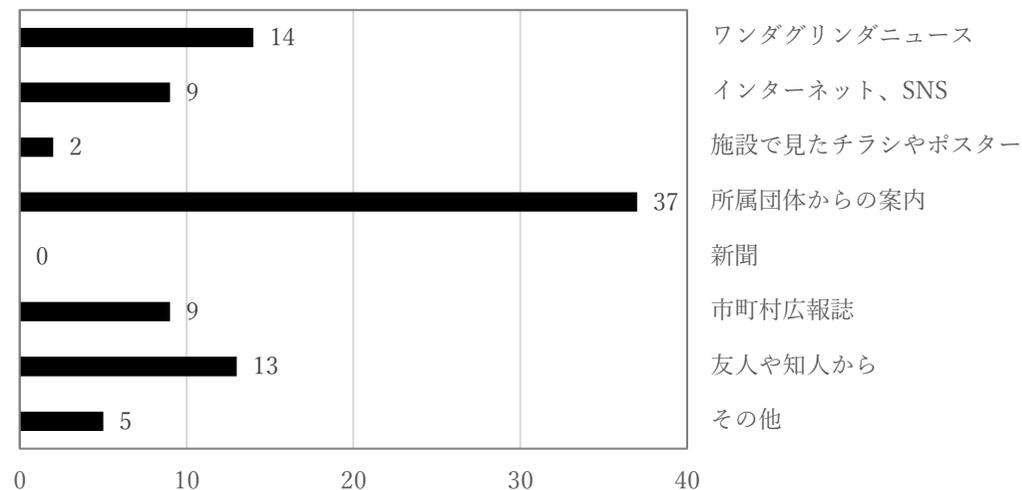


設問5. この行事をどのようにして知りましたか（選択・記入式・複数回答）

○参加した行事を知ったきっかけ

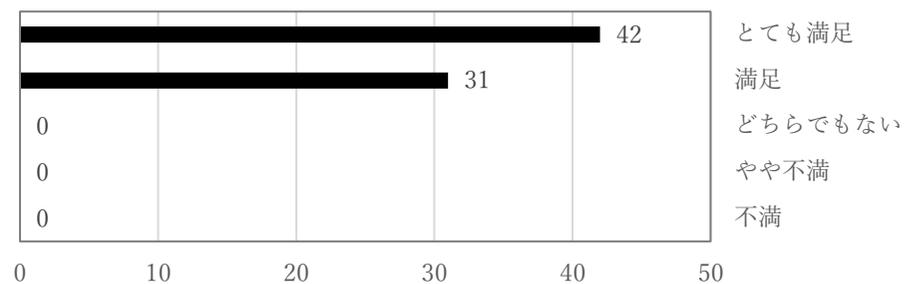
参加行事 広報媒体	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
ワンダグリンド ニュース	3	2	0	4	4	1
インターネッ ト、SNS	2	1	0	1	0	5
施設で見たチラ シやポスター	0	1	1	0	0	0
所属団体からの 案内	13	2	0	8	1	13
新聞	0	0	0	0	0	0
市町村の広報誌	1	0	3	5	0	0
友人や知人から	0	3	0	6	3	1
その他	2	0	0	0	1	2

※その他内訳：協議会からの案内（1）、主催者へ問い合わせた（1）



設問6. この行事に参加したご感想をお聞かせください（選択式）

参加行事 満足度	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
とても満足	7	6	1	8	9	11
満足	9	3	2	10	0	7
どちらでもない	0	0	0	0	0	0
やや不満	0	0	0	0	0	0
不満	0	0	0	0	0	0



その理由をご記入ください（設問6つづき、自由記載）

■幌呂地区湿原再生現地見学会 参加者回答

- ・ スタッフの方の説明がとても良かった
- ・ 天気がくもりで午前中楽だった。ヨシ移植の時だけ陽射しが強くなったがほぼ一日中くもり、スタッフの皆さんの気遣いで水をもらった。蒸し暑かったのが助かった。前日夕方から雨だったので心配だったがハンノキの皮むきがうまくできたこと、たまに汗を流す「自然の中で」良い貴重な体験だった。
- ・ 良い運動になった。
- ・ 湿原再生に関わった事に！
- ・ 毎年前にやったところが見れる事。
- ・ 天気良く大変ありがとうございました。
- ・ 前に植えたヨシの育成をみる事ができた。
- ・ 前年に移植したヨシが生き生きしていた事。
- ・ 実際に手を動かして体験することと、植物についての説明と両方を得ることができて、とても有意義だった。この体験会に参加した人たちが、もう一歩進んで体験・学ぶことができる advance コースが実施されたらいいなと思う。
- ・ 雨と思っていたが天気に恵まれた。
- ・ 湿原の知らない事が知ることができた。
- ・ 参加するごとに新発見があり自分の健康を保ち、以後にも参加したい。
- ・ 休み時間があって良かった。
- ・ 長期滞在者なので現地ならではの貴重な体験ができた事。

■久著呂川自然再生見学ツアー 参加者回答

- ・ 川に入るなど、生き物を実際に触ったり体験がたくさんできたから。
- ・ 色々な場所や生き物が見れたから。

■第1回「雷別ドングリ倶楽部」 参加者回答

- ・ ミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダの区別を教えて頂いてありがとうございます。また参加したい。
- ・ 木に関するお話を職員の方に聞いたから。樹木の話をもっと聞きたい。
- ・ 少しの力が自然再生につながるように。
- ・ 大自然の中でおいしい空気にふれながらの作業が良かった！
- ・ 植樹出来たこと。
- ・ 多くの方が参加して良かった。
- ・ 個人では来る機会のない雷別、又植樹など珍しいので。
- ・ いつも参加して楽しく、思い出が残る。

■市民講座 参加者回答

- 先生のお話がわかりやすかった。
- 普段体験出来ない事、大変勉強になった。
- 天気も良く説明も楽しかった。
- 湿原の中を実際に歩けた点。ふわふわでぬかるんでいるのが面白かった。

- 湿原の普段行けないところに行けたこと。
- 湿原の中を歩けたことがとても楽しかった。
- 天気にも恵まれ歩きながら五感で感じることはもちろん新庄さんの科学的、歴史的なお話も聞け、理解がしやすかった。

■水・物質循環見学会 参加者回答

- はじめて来た所だったので新鮮。ドローン映像で丹頂づるを見れた。スタッフの方々の熱意（一生懸命）
- 地元にながらも、一人では見る事のできない場所や美しい景観を見られ、国のしている仕事も垣間見られいい経験ができた。
- キラコタン岬（説明と散策）。
- 専門的な説明と立入禁止の場所の見学、とても貴重な体験をさせて頂いた。
- ガイドの説明、解説がわかりやすく良く納得した。
- パネルでの説明が深みがあって良かった。ドローンで現地視察良かった。
- 実際に歩いて、説明を聞き体験できた事がよかった。特にキラコタン岬。
- キラコタン岬、コッタロ湿原、音羽橋など自分では行けない所、いろいろ解説していただいた。
- ドローンの映像はとても興味深かった。
- キラコタン岬の最先端まで行けた事。ドローンによる空撮。

- 多くの新たな知識を得ることができて、知的好奇心を満たす事ができた。
- 全体的には満足ですが、残念だったことが一つ、遊歩道を歩いたときに後方にいたので説明がほとんど聞こえなかった。スピーカーはあったが、説明が始まった時に後ろはまだ歩いているので、踏んだ落葉の音で聞こえなかった。立ち止まった時は説明は既に進んでいて途中からだとなんか分からず。遊歩道以外の説明は詳しくてためになった。
- トリチウムの分析により 25Km 上流よりもぐり、50 年以上の丘に地中に湧き出すとはびっくりした。
- 湿原の説明がとてもわかりやすかった。知らなかった場所などに行けて知識が深まった。
- 詳しい資料を基にわかりやすい解説でとても有意義な 1 日でした。資料もそうですが実際に色々なものを実際に目にしながら取り組んでいる事柄のお話が聞けて大変勉強になった。帰ってから復習もする。ありがとうございました。

設問7. この行事の中で最も印象が深かったことを教えてください（自由記載）

■幌呂見学会 参加者回答

- ・とても有意義な一日でした 環状剥皮だんだん上手になった。
- ・ヨシ移植して前年に自分達が移植したヨシが育ってるのを確認したこと。午後から参加したハンノキ幹は硬かった皮がペロっとむけたことがうれしい。歩行3キロと聞いて数年前左足を痛めてたので長い距離歩けるか心配だったが皆さまにはげましてもらってバス⇄ハンノキまで往復できた。
- ・ハンノキの樹皮はがし。
- ・温根内と遠く離れている訳でもないのに植物の成長が違っていた事。
- ・ハンノキ輪状はく皮。
- ・ヨシの移植。
- ・元の自然にかえるのを少しでも見れる事。
- ・一つ一つの事にていねいに説明して頂きわかりやすかった。
- ・ハンノキの皮はがし。湿原の再生はなかなかすぐに出きるものではないことを身にしみてわかった。
- ・毎回事前の準備にありがとうございます。
- ・川嶋さんの詳しい説明。
- ・湿原を再生することの大変さ。
- ・年毎の湿原の進化が分かる。
- ・地層ボーリングの300年前の樽前山火山灰。
- ・ハンノキの樹皮はがし後 タンニンが酸化赤く変色して生命を感じた事。

■久著呂川自然再生見学ツアー 参加者回答

- ・一人では入れない川を見られた。
- ・箱メガネで水中を覗いたらヤマメが見られたこと。
- ・土砂調整地の工夫。
- ・胴長をはいて川の中の魚を見たこと。
- ・川の中を泳ぐ魚を見たこと。
- ・河床の土砂の流出を防ぐための工事（河床沈下）。
- ・植樹のための苗木を作ったこと。
- ・川の中に入る。

■雷別へ植樹に行こうYO! 参加者回答

- ・環境問題への関心や植樹に興味があったのと、望楼からのパイロットフォレストの眺望が楽しみで参加しました。またこのような活動に参加したいと思っている。ありがとうございました。
- ・湿原再生協議会のレポートで報告されていた内容が今日理解できた。

■第1回ドングリ倶楽部 参加者回答

- ・植樹させて頂きましたが、本当に立派に成長してほしいと思う。湿原再生になれば良い。
 - ・植樹する土地が笹の根でとても堅く、苗が無事に育ってくれるかどうか心配になったこと。
 - ・説明が丁寧で詳しい。学習になった。これからも続けたい。
 - ・参加者が増加しているので活発な活動が期待できると思った。
 - ・植林（苗植）や保護管の設置が大変必要な事。
 - ・皆様と一緒に活動できたこと。
 - ・いつも体験出来ない事が出来る。
 - ・昼食での対話等。
- ・クワを持つことなどなかったのが、固い土を掘って植樹して農家の苦労が分かった。
 - ・後世に自然を残す必要の大切さを学んだ。
 - ・植え付けの体験が出来て楽しめた。

■市民講座 参加者回答

- ・ミズゴケの厚さと揺れ。
 - ・湿地に埋まる体験、木道からは感じる事が無いことがいっぱい。
 - ・ふわふわで揺れる！
 - ・体験⇔学校教育（教科学習）とのつながりの面白さ。
 - ・ハンノキのこと。
 - ・ハンノキの繁殖。
- ・湿原の中に胴長を着て入ったこと。深さ、柔らかさ、水の冷たさを体験出来て良かった。
 - ・普段知ることが出来ない湿原を知れた。
 - ・少しの違いで見た目に大きな変化が生まれていること、気温に比べて水がひんやりしていたこと。

■水・物質循環見学会

- ・キラコタンが想像していた所とちがった（こんなに歩くとは思わなかった）。
 - ・鶴の美しい姿、見られて幸福だった。
- ・全ての河川が釧路川へ合流している事、横堤の役割、河川の流入量、流出量を調べている事、すごいと思った。とてもおもしろい体験だった。

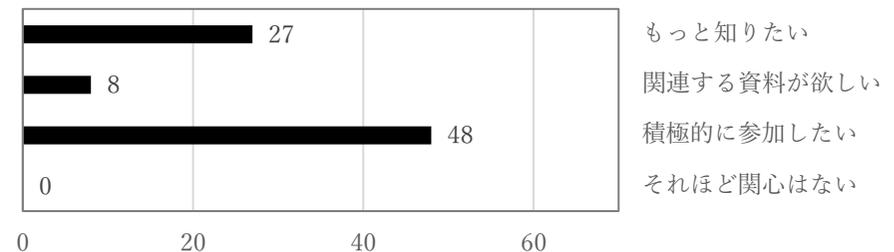
- ・キラコタンにオオハンゴウ草が以前より増えていた事。鹿の数多すぎ。ビジターセンターを歩いてクレソン鹿に食べられたのか前年よりミツガシワがへっていた。
- ・露頭の説明、見学。
- ・釧路湿原の役割、いろんな事があると改めて知った。
- ・ドローンの映像。
- ・ドローンが面白かった。
- ・ドローンで河川の交わり等が見れた事。
- ・ていねいな資料ありがとうございます。何度もひらき予習したい。
- ・二本松地区の露頭、自然の強さをあらためて知った。
- ・ドローンで見た雪裡川の直線の姿。
- ・ドローンの空撮映像で雪裡川が音羽橋から下流が人工的につくられた川という事が初めてわかった。右岸堤防を走り（約10年ぶり？）初めて横堤の役割を知り感銘を受けた。

- ・ハンノキは窒素リン等を葉から回収しないため、土壌へそれ等の養分を供給するという事。湧水が多いこと。
- ・右岸堤防、通常は入れない所を見ることができて興味深かった。湿原に堤防の役割があることを初めて知った。準備してくださった皆さん、楽しかったです。どうもありがとうございました。
- ・キラコタン岬のお話を聞くことが出来て大変有意義だった。絶滅によりタンチョウが発見されずばらしい所を見る事が出来た。
- ・キラコタン岬散策。ドローンでの雪裡川の様子をみたこと。
- ・初めて来たキラコタン岬から見た川の蛇行を見て、おそらく太古の昔の人々が見たであろう景色を見ることができたこと、その美しさに感動した。

設問8. 今回訪れた事業地では、再生事業が行われています。再生事業について関心はありますか（選択式・複数回答）

○自然再生事業への関心

参加行事 関心度	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
もっと知りたい	5	6	0	1	6	9
関連する資料が欲しい	2	2	0	1	0	3
積極的に参加したい	12	5	2	14	6	9
それほど関心はない	0	0	0	0	0	0



第 4 期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価について（案）

第 4 期行動計画期間（2020 年度～2024 年度）（以下、計画期間）における取組みの評価を以下のように行う。

評価方法について

第 4 期釧路湿原自然再生普及行動計画（以下、第 4 期計画）で示される、「3-1 市民参加・環境教育とともに」の普及・拡大に向けた各目標（以下、3-1 各目標）における取組み状況、「3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて～地域への貢献」の推進に向けた各方策（以下、3-2 各方策）について、ABC 評価を行う。

上記評価を踏まえて、「3-1 市民参加・環境教育とともに」、「3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて～地域への貢献」について、それぞれ定性的に評価を行う。

3-1 各目標

- ①湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる
- ②湿原と地域に学ぶ～学校や地域での学びの幅を広げる
- ③湿原のために行動する～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

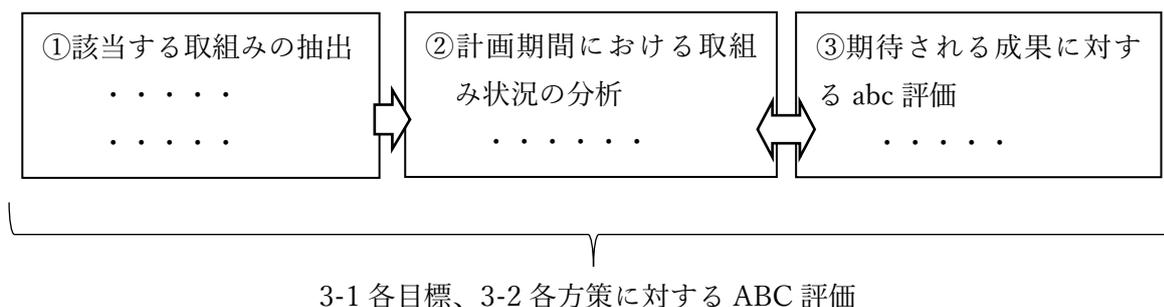
3-2 各方策

- (1) 一次産業とのつながりをひろげる
- (2) 観光分野との連携をすすめる
- (3) 湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

ABC 評価の定義

- A) 十分な取組みの成果が得られた
- B) 課題があるものの一定の成果が得られた
- C) 取組みの充実が望まれる

3-1 各目標および 3-2 各方策の評価にあたっては、①取組み方策に該当する取組みを抽出し、②評価指標および取組み内容から計画期間における取組み状況を分析するとともに、③期待される成果に対する abc 評価を行い、①から③を踏まえて ABC 評価を行う。



取組みの評価について

3-1 市民参加・環境教育とともに

① 湿原を身近に感じる ～人々が湿原とつながる～

取組みの方策

- (1) 湿原にふれる機会をひろげる
- (2) さまざまな分野の取組みとつながる
- (3) より多くの人に湿原の情報をとどける

該当する取組み・実施状況

○ホームページ・メールニュースでの情報発信、イベントでのPR（継続）

- ・HP アクセス数：普及ポータル 4253 セッション（令和5年度）【傾向：増加】
学校支援ポータル 3262 セッション（令和5年度）【傾向：増加後、微減】
- ・メールニュース：登録者 286 アドレス（令和6年度）【傾向：横ばい】
配信数 187 回（令和2年度～5年度）行事情報を中心に多様な情報を配信
- ・企画展示開催数：延べ9施設で26回実施（令和2年度～5年度）
自然再生事業に係る広報、ワンダグリンダ登録団体と連携した普及等実施

○ホームページ掲載情報の充実（第4期より）

- ・普及ポータルサイトにおける主な追加情報
ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体の紹介（一覧・45団体・個人の紹介ページ作成）
釧路市中央図書館への資料収蔵の案内（トップページでの案内、収蔵資料掲載）
現地見学会 取組み報告・動画掲載（各年度行事終了後に実施内容を掲載）
- ・学校支援ポータルサイトにおける主な追加情報
映像資料（6種の動画掲載ページ作成、52種の動画掲載）
教員研修講座（5講座の実施記録を追加掲載）
やってみよう！ジュニア研究（6校、児童197名の学習成果を掲載）
これまでの支援事例（学習のフォローアップ23件、フィールド学習の支援14件、モデル授業の実施17件の実施概要を掲載）

○ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体とオフィスが連携した取組み（学習支援は第4期より）

- ・行事出展、施設展示 12 回（令和2年度～5年度）
- ・湿原学習の共同での支援 18 回（令和2年度～5年度）

○ワンダグリンド・プロジェクト登録主体による多様な取組み（継続）

- ・登録主体概要：56 主体が参加（令和 6 年度）
個人、企業、NPO、行政、学校等多様な主体が参加
54 主体が 5 年以上継続参加、計画期間中に 4 主体が新たに参加
- ・取組み概要：情報発信 28 主体、学習活動 14 主体ほか、清掃・調査・駆除活動等多様な活動

○湿原学習に取り組む児童からの発信（第 4 期より）

- ・研究発表ボードの企画展示：延べ 9 施設にて 20 回実施（令和 2 年度～令和 5 年度）
- ・釧路湿原サイエンスフェア研究発表会（協力事業）：発表児童 27 名、聴講者約 150 名
（令和 4 年度、令和 5 年度）

○図書館との連携（第 4 期より）

- ・釧路湿原自然再生協議会および各小委員会事務局発行資料の収蔵
釧路市中央図書館 56 種類、標茶町図書館 25 種類、釧路短期大学附属図書室 25 種類

期待される成果に対する状況

- 協議会構成員やワンダグリンド・プロジェクトの活動をとおして、釧路湿原とつながる情報発信が継続的になされる。【評価：a】
《評価の理由》ホームページやメールニュース、行事出展等を通じた情報発信を継続しておこなったほか、映像資料の活用、ホームページや行事を通じた湿原学習に係る情報の発信、図書館との連携等、様々な手法を通して多様な情報発信を行った。
- ワンダグリンド・プロジェクトの活動に、新たな広がりや発展が見られる。【評価：a】
《評価の理由》参加主体数は微減となっているものの、コロナ禍において活動が制約される中、各主体により感染拡大防止を考慮した取組みが行われたほか、オフィスと連携した展示の企画、湿原学習支援、講座の実施等が活発に行われた。
- 新たな分野から協議会との連携・協力が得られる。【評価：a】
《評価の理由》学校支援の取組みにおける教育機関や社会教育施設等との連携、地域づくり小委員会における釧路湿原のワイズユースの事例共有等、教育分野や観光分野との積極的な連携が行われた。

(4) 本目標の評価

評価 A

総評 コロナ禍においても各主体が工夫して取組みの継続が試みられたほか、多様な媒体、手法を用いた情報発信、主体間の連携が行われた。また、期待される成果について、いずれも十分な取組み成果が得られた。

② 湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～

取組みの方策

- (1) 教員・指導者が学ぶ機会をひろげる
- (2) 学びに関わる人をつなぐ
- (3) 湿原の多面的な価値の学びにむけて

該当する取組み

○教員研修講座、フィールドワークショップの企画実施（継続）

- ・教員研修講座5件（うち2件オンライン）実施、75名参加（令和2年度から令和5年度）
- ・フィールドワークショップ5件実施、49名参加（令和2年度から令和5年度）

○フィールド学習のコーディネート（第4期に拡充）

- ・モデル授業実施校7校、延べ29回実施、822人参加（令和2年度から令和5年度）
- ・コロナ禍においても、プログラムの工夫、学校との調整を図り、実施全7校中6校が各校での取組み開始から継続して実施
- ・訪問フィールドおよび学習内容の提案、参考資料の作成・提供、講師・施設等との調整、教員へのフィールド事前案内、当日対応等実施

○ビジターセンター等施設、オフィスによる学習支援（継続）

- ・55校、延べ194回、4,688人に対応（令和2年度から令和5年度）
- ・コロナ禍で対応数が減少したものの、コロナ禍以前の水準まで増加
- ・55校中17校（約3割）が釧路管外および道内から来訪

○施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第4期から）

- ・ワンダグリンド・プロジェクト登録団体・個人と共同した学習支援の実施18件
- ・社会教育施設等と連携した湿原学習支援：フィールド学習支援11件、映像資料32種作成、学習とりまとめ・成果発表での訪問・助言13件、学習成果企画展示18件
- ・湿原学習実施校の教員と社会教育施設・団体等との情報交換会2回実施、5校から教員11名、団体等8主体から、20名参加

○教育分野における自然再生事業地の活用（継続）

- ・11主体、延べ43回、759名が訪問（令和2年度から令和5年度）

○湿原の多面的な価値を体感する行事企画（第4期から）

- ・市民講座：一般市民を対象に、湿原の保全や再生の歴史、湿原の機能を座学とフィールドワークを通して体感。延べ4回、46名参加、第1回から第3回講座については、3回連続講座として実施。（属性：50歳未満35%・50代以上65%、協議会事務局主催行事参加経験を含め65%が初めての参加）（令和2年度から令和5年度）

- ・水循環小委員会（現地見学会）：同小委員会で得られた知見を体感する機会として実施。延べ3回、42名（属性：50歳未満7%、50代以上93%、協議会事務局主催行事参加経験を含め33%が初めての参加）（令和2年度から令和5年度）

期待される成果に対する状況

- 教員や社会教育を担う人々に湿原の価値が認識される【評価：a】
《評価の理由》教科と連動した探求学習の題材として、釧路湿原の教育的な価値について教育関係者から高い評価を得ているほか、児童の探求のプロセス、学内・学外での発表会や展示会を通じた多様な主体の連携、情報発信により、教員や社会教育を担う人々に湿原の価値の認識が進んだ。
- 湿原に関する学習の機会が増加する【評価：b】
《評価の理由》コロナ禍において多くの行事が中止や規模の（時間、内容、定員）縮小となり、計画期間において学習機会は減少した。一方でオンラインや映像資料などを通じた多様な媒体を活用した学習機会が新たに形づくられたほか、フィールドプログラムにおける多様な工夫を通して、少人数による質の高い学習機会を提供することができた。
- 学校、NPO、専門家、地域産業などの連携が進み、新たな学びの機会が形成される【評価：a】
《評価の理由》探求学習支援を通じた多様な主体の連携が進み、フィールド学習でのレクチャー、児童の探求プロセス、学内・学外での発表会における児童への助言等、多様な視点から児童の学びを支え、児童の成果を価値づける機会が形成された。
- 湿原が地域にもたらす様々な機能や価値が、今よりも活用され、湿原に関する理解が深まる【評価：a】
《評価の理由》釧路湿原を題材とした探求学習の広がり、児童による地域への発信、市民講座による裾野拡大、水循環小委員会で得られた知見を体感する勉強会等の取組みが新たに活発に行われた。また、太陽光パネルと湿原保全の課題・議論を通して、市民の湿原への理解が広まりつつある。

（4）本目標の評価

評価 A

総評 コロナ禍により学習機会の減少が生じたものの、多様な主体の連携、取組みの工夫を通して、コロナ禍において質を高めた学習機会の企画、多様な媒体を活用した学習機会が生まれた。また、期待される成果について、一部課題を有したものの、コロナ禍における状況を踏まえると、十分な取組み成果が得られた。

③ 湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

取組みの方策

- (1) 新たな活動・参加機会づくりをみちびく
- (2) 参加機会・方法を地域に幅広くとどける
- (3) 地域の人々が湿原を見まもる
- (4) 協議会への参加をひろげる

該当する取組み

○協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第4期から）《再掲》

- ・釧路湿原を題材とした探求学習支援を通して、学校、社会教育施設、教育委員会等と湿原との接点が新たに形づくられ、取組みの継続に向けた連携の輪が広がりつつある。

○地域づくり小委員会における自然再生事業箇所・利活用の取組み（第4期から）

- ・標茶町と連携したヌマオロ地区自然再生事業地利活用の検討：現地視察、意見交換
- ・鶴居村と連携した幌呂地区湿原再生事業地利活用の検討：現地視察、方向性について意見交換

○ボランティア登録制度の運用・広報、他事業との交流（継続）（令和2年度～令和6年度）

- ・小委員会事務局が運営する4つのボランティア登録制度の登録者延べ1,214名（計画期間新規登録者137名（11%）、4年以上継続参加者164名（14%））
- ・登録者の99%が流域市町村からの参加者
- ・活動概要：4つのボランティア活動で延べガイド84回、活動124回（外来種防除101回、育林・植樹14回、学習9回）、観察・報告等45回の取組みを実施
- ・ワンダグリンダニュース、各小委員会事務局による広報
- ・現地見学会、フィールドワークショップへの登録ボランティア参加による双方の活動の活性化（ボランティア学習機会、ボランティア制度を通じた普及機会の充実）

○自然再生事業地 現地見学会の実施（継続）

- ・7事業地において20回実施、延べ338人が参加（令和2年度～令和5年度）
- ・50歳未満の参加者31%、流域市町村外（道内・道外）からの参加者21%（令和2年度～令和5年度）
- ・該当行事へ初めて参加した参加者49%（令和2年度～令和5年度）
- ・協議会主催行事を含め初めての参加32%（令和3年度～令和5年度）

○フィールドワークショップの実施（継続）《再掲》

- ・再生普及小委員会、ワンダグリンダ・プロジェクト登録団体・個人を対象に、湿原の機能、湿原の現在の様子を知り再生事業の意味、成果を体感する機会を継続的に企画。参加主体の学習機会づくり、参加者による普及を目的に実施。

○市民講座、水循環小委員会主催行事の実施（第4期から）《再掲》

- ・市民講座：一般市民を対象として、湿原の保全の歴史や再生事業の背景、湿原の機能や現在の様子を体感する機会として実施。講座への参加を通してワンダグリンド・プロジェクトへの参加および連携した活動、学生の授業への活用などの展開も見られた。
- ・水循環小委員会主催行事：同委員会で得られた知見を体感する機会として実施。

○小委員会、協議会の取組み（継続）

- ・参加委員 146 名（令和 5 年度）【傾向：微増】
- ・新規登録者 23 名、2 団体（令和 2 年度～令和 5 年度）
個人：コンサルタント会社所属（釧路町 1 名、札幌 3 名、帯広 1 名）、大学教授等（北海道教育大学 1 名、北大 4 名、九大 3 名）、シンクタンク所属（札幌 3 名）、大学研究所所属（京都 1 名）、漁業関連公社所属（札幌 1 名）、設備会社所属（釧路市 1 名）、ほか個人 4 名
団体：土木会社（標茶町）、大学研究会（東京）、
- ・令和 2 年度より旧川復元小委員会を河川環境再生小委員会に改名、釧路自然保護協会による自然再生実施計画が策定

○小委員会等による取組み

- ・生態系評価ワーキンググループ
釧路湿原周辺における再生可能エネルギー事業に関する提言（令和 5 年）：釧路市長に提出、自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
太陽光発電事業計画策定にあたって配慮すべき希少種の生息地について（令和 5 年）：WEB マップ、希少種・法規制に係る紹介等の自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
- ・湿原再生小委員会
第 3 期 達古武湖自然再生事業実施計画の策定（令和 5 年度）
- ・河川環境再生小委員会
釧路湿原自然再生事業 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画の策定（令和 2 年度）
釧路川茅沼地区の旧川復元—自然再生事業における目標設定からモニタリングまでの技術資料—の公開（令和 5 年度）
- ・森林再生小委員会
釧路湿原達古武地域 再生事業実施計画 付録の追記（令和 2 年度）
- ・水循環小委員会
釧路湿原の水循環—現地観測とシミュレーションによる釧路湿原の水と物質の移動形態の解明—の公開（令和 3 年度）
- ・再生普及小委員会
小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況および共通アンケートとりまとめ、実施報告の普及ポータルサイトへの掲載・広報（令和 2 年度～令和 5 年度）
- ・地域づくり小委員会
釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会活動報告書(中間報告)～ワイズユースを目指して～の公開（令和 3 年度）

釧路川保全と利用のカヌーガイドラインについて（改訂版）の発行・普及（令和3年度）
釧路川カヌーネットワークと連携した釧路川入川届の普及（令和4年度）

期待される成果に対する状況

- ▶ 湿原の保全や再生、地域づくりの取組みに、学生・若者、長期滞在者、海外からの来訪者等の参加が得られる【評価：b】
《評価の理由》コロナ禍により行事規模の縮小を余儀なくされ、また海外からの来訪者の参加は得られなかったものの、各小委員会主催現地見学会等に学生、10代から30代の参加者、長期滞在者の参加が得られた。
- ▶ 湿原の保全や再生、地域づくりにつながる活動が生まれる【評価：a】
《評価の理由》第4期計画期間より、河川環境再生小委員会においては、釧路自然保護協会が主体となり実施計画が策定され、地域の多様な主体が連携した取組みが進められた。また、再生普及小委員会においては、学校や地域と連携した湿原学習支援の仕組みづくりを進め、モデル授業として実施してきた5校での定着が見られたほか、地域づくり小委員会の取組みにおいて、市町村と連携した自然再生事業地の活用に向けた議論が進んでいる。また、第4期計画期間に顕在化した湿原における太陽光発電事業の課題に対して、協議会として取組みに賛同し、提言の公開、関連資料の協議会ポータルサイトへの掲載、市民団体主催シンポジウムへの共催など、取組みの推進に貢献している。
- ▶ 湿原の保全や再生、それらと関わる地域づくりに取り組む人々が協議会に参画する【評価：b】
《評価の理由》流域内での保全や再生、地域づくりに取り組む主体の参加は少数であったものの、大学、コンサルタント会社、研究機関、土木会社等、地域内外の多様な主体が協議会に参加登録を行った。また、地域づくり小委員会の取組みにおいて、多様な事例の共有、協議会と協働した取組みの議論が進んでいる。

（4）本目標の評価

評価

総評

3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

(1) 一次産業とのつながりをひろげる

該当する取組み

○地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

- ・地域づくり小委員会活動報告書の作成・公開：小委員会の中間成果の取りまとめ、共有
- ・情報共有（話題提供）：委員からの提案・情報共有
- ・農業事業者と連携した自然再生見学会の開催：水循環小委員会現地見学会において、環境に配慮した農業生産法人の活動や流域の取組みの重要性（土砂や栄養分の流入抑制）を学ぶ企画を実施
- ・農業事業者との意見交換・取組みのPR：標茶西地区農地・保全隊、JA 阿寒青年部、株式会社伊藤デイリーとの意見交換、X およびニュースレター特別号において農業事業者の取組みのPR

期待される成果に対する状況

- 一次産業関係者の協議会への参加や協働事業が進む【評価： 】

《評価の理由》

本方策の評価

評価

総評

(2) 観光分野との連携をすすめる

該当する取組み

○地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

- ・かわたび北海道と連携した利活用プランの提案：釧路湿原を満喫するモニターツアー（釧路町主催）、サイクルツーリズム（シーニックバイウェイの取組みとの連携）、かわたび×うまたびプロジェクト（道東ホースタウンプロジェクト）
- ・ワイズ・ユースに係る取組みの提案・共有：気球係留フライト（釧路町観光協会主催）、仮設トイレの設置（北開水工コンサルタント）、国立公園ブランドプロミス・ロングトレイル（環境省）、インフラわくわくツアー（北海道開発局）
- ・道の駅における取組みとの連携：細岡展望台、温根内木道に関する外国語表記情報カードの作成・設置
- ・自然再生事業箇所利活用の推進：標茶町、鶴居村担当者の現地視察・意見交換、再生事業地利活用についてレイアウトマップ、全体マップを用いた方向性の議論

期待される成果に対する状況

- 湿原の保全や再生と観光・地域づくりを両立する取組みがはじまる【評価： 】
《評価の理由》

本方策の評価

評価

総評

(3) 湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

該当する取組み

○地域づくり小委員会の取組み（継続）《一部再掲》

- ・カヌーガイドラインの改定：カヌーガイドや動植物の専門家への個別ヒアリング、グループヒアリングでの意見交換を通して作成
- ・カヌーガイドラインの普及に向けた取組み：広報施策の検討、ポケット版・広報ポスターの作成、カヌーガイド・他小委員会事務局と連携した普及

期待される成果に対する状況

- 湿原を訪れる来訪者に向けた、適正な利用のルールが普及する【評価： 】
《評価の理由》

本方策の評価

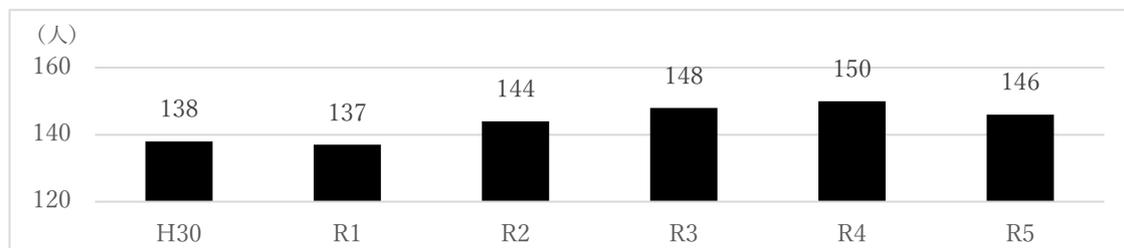
評価

総評

評価指標に基づく第4期計画期間における概況、取組み状況

協議会、小委員会の参加状況

構成員数



新規登録者数

年度	個人	団体	計
R2	6	1	7
R3	6	0	6
R4	7	2	9
R5	3	0	3

実施内容 (令和2年度～令和5年度)

小委員会等	主な取組み
生態系評価ワーキンググループ	釧路湿原周辺における再生可能エネルギー事業に関する提言 (令和5年度) 釧路市長への提出、自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
	太陽光発電事業計画策定にあたって配慮すべき希少種の生息地について (令和5年度) WEB マップ、希少種・法規制に係る紹介等の自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
湿原再生小委員会	第3期 達古武湖自然再生事業実施計画 策定 (令和5年度)
河川環境再生小委員会	釧路湿原自然再生事業 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画の策定 (令和2年度)
	釧路川茅沼地区の旧川復元—自然再生事業における目標設定からモニタリングまでの技術資料—公開 (令和5年度)
森林再生小委員会	釧路湿原達古武地域 再生事業実施計画 付録追記 (令和2年度)
水循環小委員会	釧路湿原の水循環—現地観測とシミュレーションによる釧路湿原の水と物質の移動形態の解明—公開 (令和3年度)
再生普及小委員会	小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況および共通アンケートとりまとめ、実施報告の普及ポータルサイトへの掲載・広報 (令和2年度～令和5年度)
地域づくり小委員会	釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会活動報告書(中間報告)～ワイズユースを目指して～公開 (令和3年度)
	釧路川保全と利用のカヌーガイドラインについて(改訂版)の発行・普及 (令和3年度)
	釧路川カヌーネットワークと連携した釧路川入川届の普及 (令和4年度)

コロナ禍で得られた知見

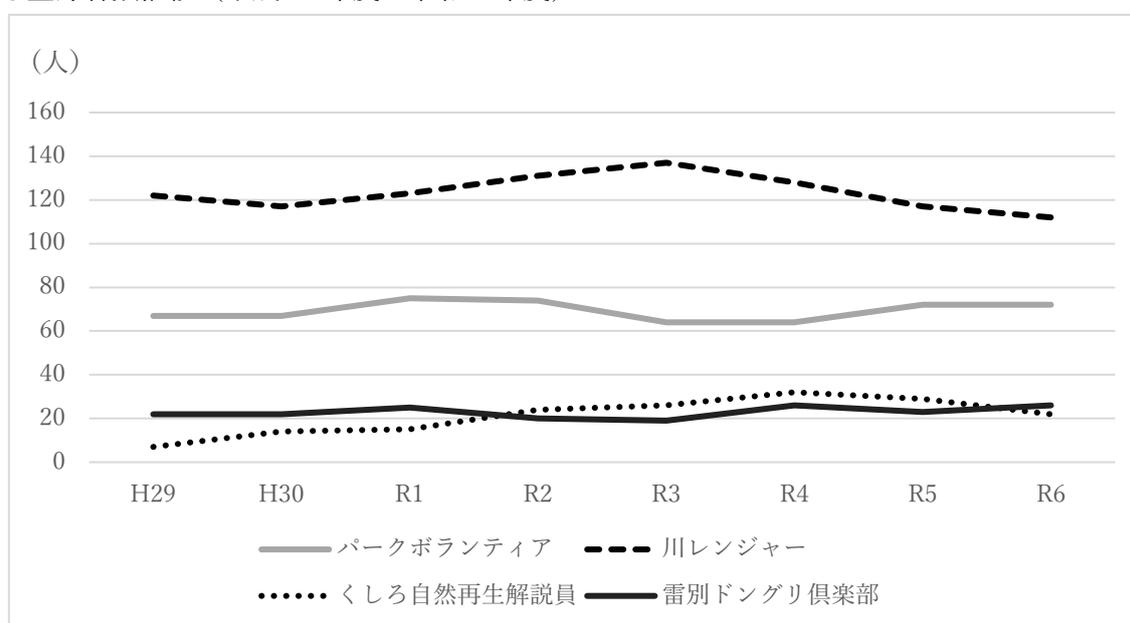
- ・様々な工夫や配慮により行事や会議の質が向上する
- ・適切な人数規模で行うことで参加者の理解が深まる
- ・オンラインを活用した行事や会議の有効性
- ・アーカイブ配信、映像資料の活用等、情報共有方法が多様化

協議会事務局が運営するボランティア制度の状況

登録者数・継続者数・新規登録者数（令和2年度～令和6年度）

名称（所管）	登録者 延べ人数	4年以上の継続参加者 （令和5年登録者対象）	第4期行動計画期間の 新規登録者数
パークボランティア （環境省）	346	55	17
川レンジャー （釧路開発建設部）	625	81	97
自然再生解説員 （釧路開発建設部）	129	15	6
雷別ドングリクラブ （釧路湿原森林ふれ あい推進センター）	114	13	17

○登録者数推移（平成29年度～令和6年度）



登録者所在地（令和5年度）

所在地	パークボラン ティア	川レンジャー	くしろ自然再 生解説員	雷別ドングリ 倶楽部	計（%）
釧路市	53	88	19	16	176（73%）
釧路町	4	14	7	4	29（12%）
標茶町	4	10	0	0	14（6%）
鶴居村	7	3	0	1	11（5%）
弟子屈町	1	2	1	2	6（2%）
厚岸町	1	0	2	0	3（1%）
札幌市	1	0	0	0	1（0%）
東京都	1	0	0	0	1（0%）

取組み内容（令和2年度～令和5年度）

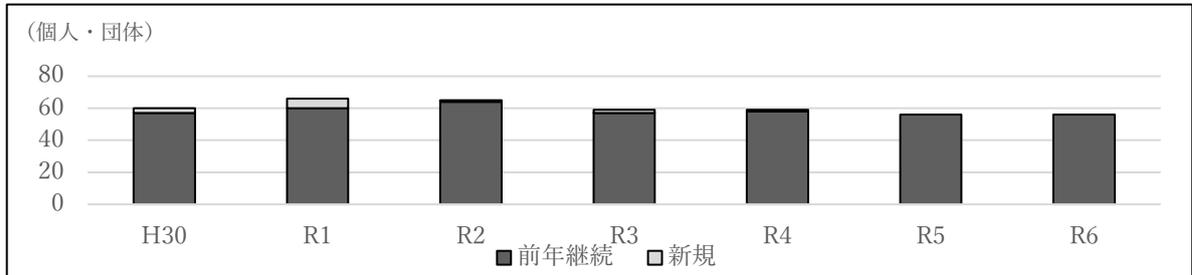
- パークボランティア（釧路自然環境事務所）
 - ・ガイド回数9回、聴聞者延べ107名
 - ・外来種防除101回、参加者延べ294名（一般参加者含む）
 - ・清掃活動 43回、参加者延べ625名（一般参加者含む）
 - ・エゾシカカウント 76回 参加者219名
- 川レンジャー（釧路開発建設部）
 - ・観察活動報告件数 延べ45回
 - ・学習活動9回、参加者延べ142名
- くしろ自然再生解説員（釧路開発建設部）
 - ・ガイド回数 75回、聴聞者延べ2844名
- 雷別ドングリクラブ（釧路湿原森林ふれあい推進センター）
 - ・活動回数14回、参加者延べ186名

ワンダグリンダ・プロジェクトの状況

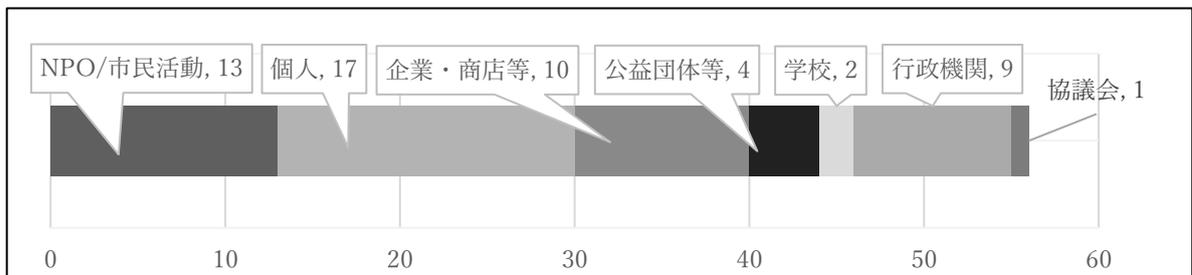
登録者数

○令和6年度登録者数 56個人・団体

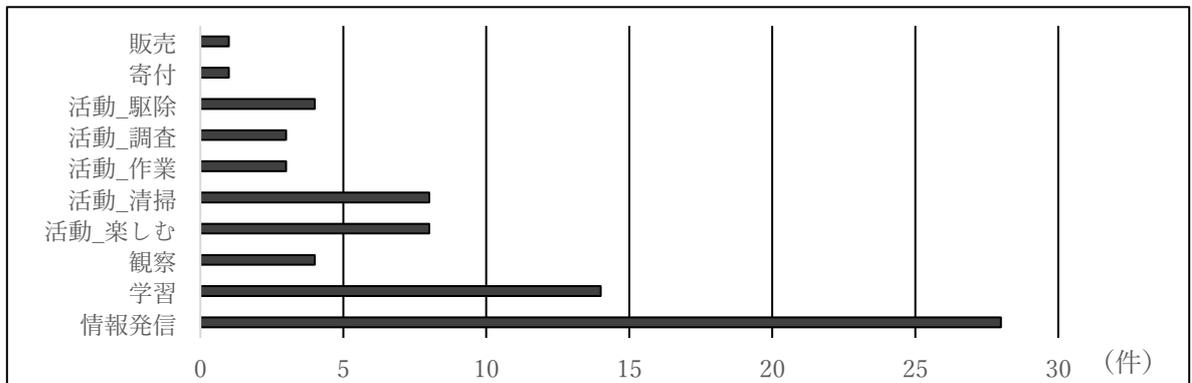
○登録者推移



登録主体の属性



登録活動の内容 (令和6年度)



登録継続率 (令和6年度)

5年以上参加している個人・団体 96% (54個人・団体)

新規登録数・属性・取組み内容 (令和2年度～令和6年度)

属性	個人・団体数	取組み内容
個人	2	学習、情報発信
行政	1	学習、情報発信
NPO	1	学習

情報発信の状況

全国紙および地方紙における報道掲載数

○検索ワード 釧路湿原

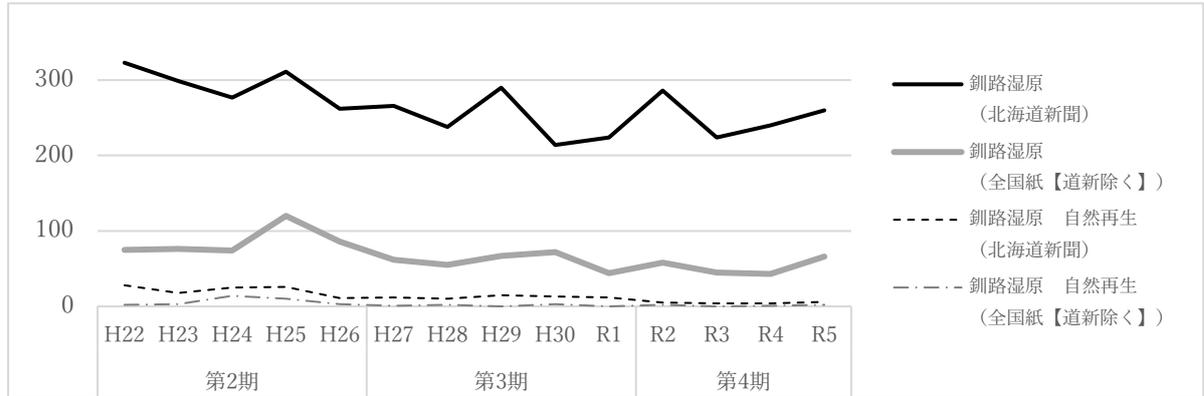
- ・全国紙 60件（第3期計画 年平均）→53件（第4期計画 年平均）
- ・地方紙 北海道新聞 294件（第3期計画 年平均）→246件（第4期計画 年平均）

○検索ワード 釧路湿原自然再生

- ・全国紙 1件（第3期計画 年平均）→1件（第4期計画 年平均）
- ・地方紙 北海道新聞 12件（第3期計画 年平均）→5件（第4期計画 年平均）

○釧路湿原に関する記事（目視による確認）

- ・釧路新聞 116件/年（令和5年度）



※日経テレコンで検索。新聞全国紙（日経、朝日、毎日、読売、産経）、北海道新聞において、見出し、または本文に「釧路湿原」、「釧路湿原 自然再生」を含む記事数。

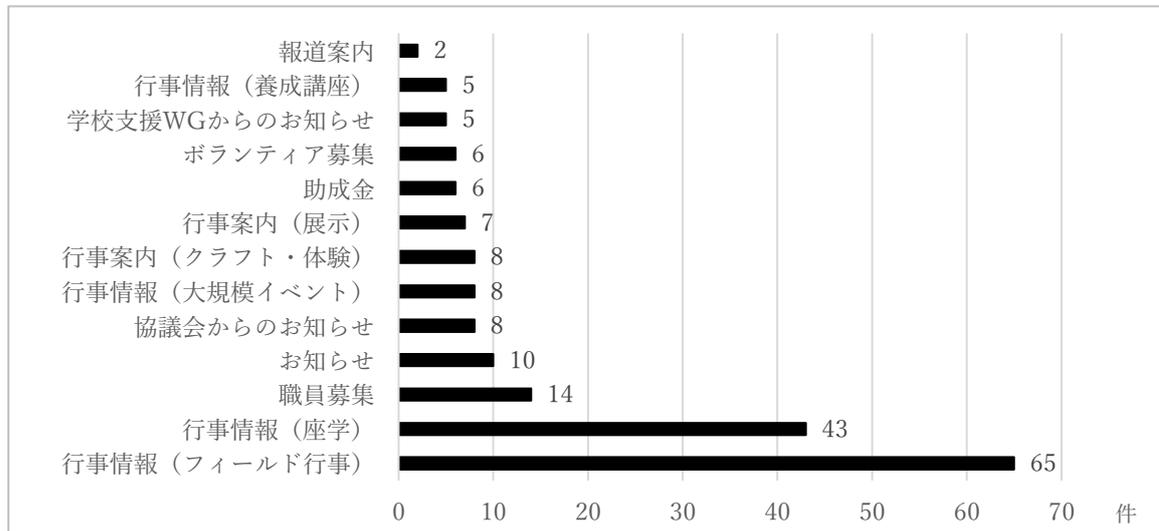
メールニュース配信状況

○配信者数

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
配信数	275	277	295	305	281	288	286

○延べ発行数：187件（令和2年度～令和5年度）

メールニュース配信内容（令和2年度～令和5年度）

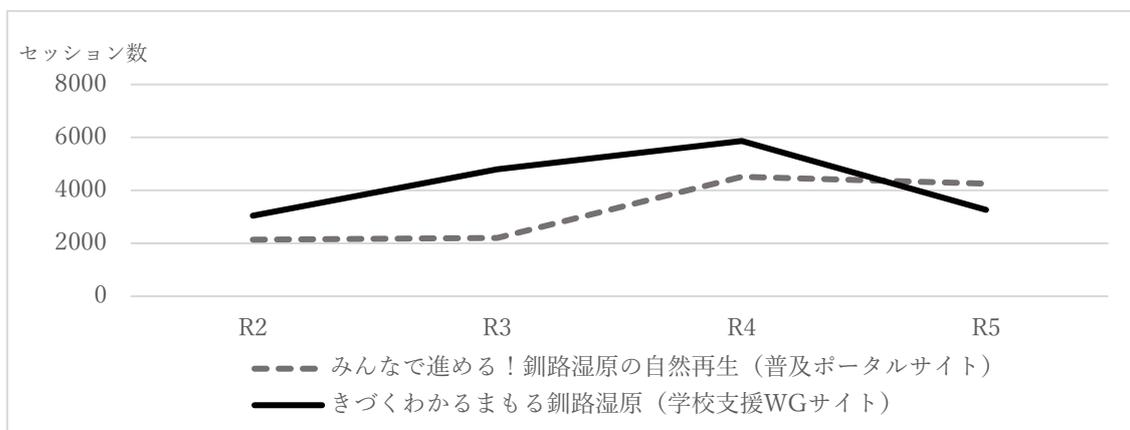


WEB サイトアクセス数（令和 5 年度）

みんなで進める！釧路湿原の自然再生（kushiro-wanda.com/）：4,253 セッション

きづく わかる まもる 釧路湿原（kushiro-ee.jp/）：3,262 セッション

○アクセス数推移（令和 2 年度～令和 5 年度）



※Google アナリティクスにおいて各年度の累計セッション数をカウント。

掲載内容

第 4 期計画期間中の新規作成、更新ページ

【みんなで進める！釧路湿原の自然再生】

- ・ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体の紹介（一覧・45 団体・個人の紹介ページ作成）
- ・釧路市中央図書館への資料収蔵の案内（トップページでの案内、収蔵資料掲載）
- ・現地見学会 取組み報告・動画掲載（各年度行事終了後に実施内容を掲載）
- ・ワンダグリンダニュース（メールニュース配信内容の掲載 掲載頻度：2 回/月）
- ・釧路湿原イベントカレンダー（メールニュース案内行事をグーグルカレンダーに掲載）
- ・再生普及小委員会、推進連携チーム、学校支援 WG 実施状況（資料、議事要旨を掲載）

【きづく わかる まもる 釧路湿原】

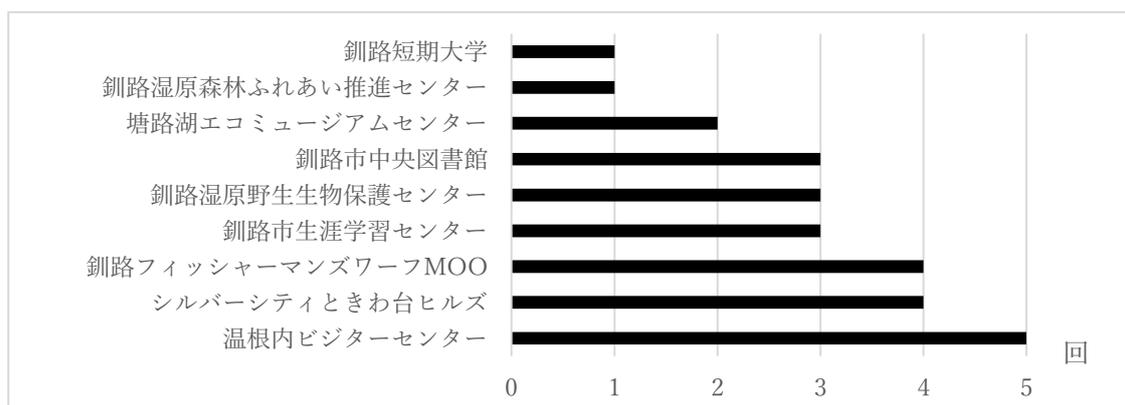
- ・映像資料（6 種の動画掲載ページ作成、52 種の動画掲載）
- ・フィールド情報マップ（2 つのフィールド情報を追加掲載）
- ・教員研修講座（5 講座の実施記録を追加掲載）
- ・ワーキンググループ実施状況（実施概要、配布資料、議事要旨を掲載）
- ・やってみよう！ジュニア研究（6 校、児童 197 名の学習成果を掲載）
- ・これまでの支援事例（学習のフォローアップ 23 件、フィールド学習の支援 14 件、モデル授業の実施 17 件の実施概要を掲載）

紙媒体、展示等での情報発信の状況

○企画展示実施回数

年度	R2	R3	R4	R5	計
実施回数	3	6	10	7	26

○実施場所（令和2年度から令和5年度）



○展示内容（令和2年度から5年度）延べ26回の企画展示における各展示の回数

展示内容	展示回数
現地見学会広報	13回
自然再生事業紹介	12回
ワンダグリンド登録団体と連携した普及	12回
ワンダグリンド登録団体紹介	8回

※対象期間における延べ26回の企画展示における各内容の展示回数

自然再生事業地の活用状況

協議会事務局による取組み

○自然再生事業地 現地見学会実施件数 ※水循環、市民講座を除く

年度	R2	R3	R4	R5	計
実施回数	6	3	6	5	20

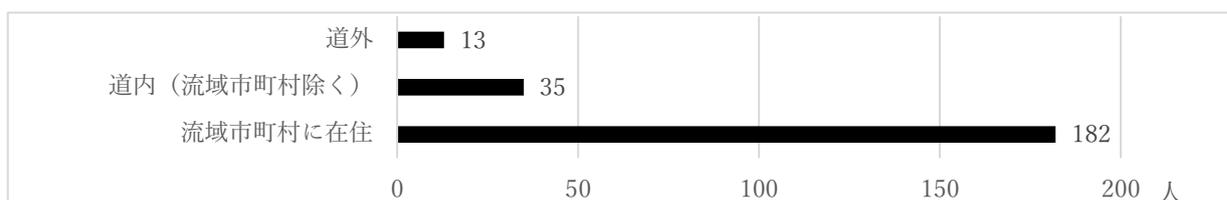
○参加者数

・一般参加者 延べ 338 人（令和 2 年度～令和 5 年度）※水循環、市民講座を除く



○参加者属性（令和 2 年度～令和 5 年度）※水循環、市民講座を除く

- ・参加者年齢層 50 歳未満の参加者の割合 31%
- ・参加者の居住地



○参加回数 ※水循環、市民講座を除く

- ・参加行事への参加経験：初めて参加した参加者の割合 49%（令和 2 年度から 5 年度）
- ・協議会事務局主催行事への参加経験：初めて参加した参加者の割合 32%（令和 3 年度～令和 5 年度）

○実施内容（令和 2 年度～令和 5 年度）

事業地	イベント名	主催	実施内容
幌呂	幌呂地区湿原再生 現地見学会	釧路開発 建設部治 水課	事業説明、事業実施後の植生の見学、泥炭の観察、ヨシの移植・ハンノキの環状剥皮体験
達古武	カヌーde ヒシ刈り in 達古武湖	環境省釧路 自然環境 事務所	カヌーでのヒシ刈り、再生した水草の観察等
茅沼・ ヌマオ ロ	茅沼地区旧川復元 現地見学会	釧路開発 建設部治 水課	茅沼地区では釧路川をカヌー等で下りながら旧川復元の効果を観察。ヌマオロ地区では魚類等の調査、希少生物の生息状況や再生事業の取り組みについて解説。

事業地	イベント名	主催	実施内容
雷別	雷別ドングリ倶楽部	釧路湿原森林ふれあい推進センター	郷土樹種である広葉樹の植樹、植栽木への保護菅（ツリーシェルター）被覆作業を実施
	企業との協働による広葉樹の森林づくり		
	若者YO! 雷別へ植樹に行こうYO!		
達古武	自然再生を考える調査体験会 沢の生き物調べ	環境省釧路自然環境事務所	沢の源流部まで歩きながら、湧水や沢に暮らす生き物の観察、森の役割について解説
久著呂	久著呂川自然再生の見学ツアー	釧路建設管理部治水課	上流域から湿原流入部までを訪問し、自然河川の特徴、水辺環境の回復状況の体験後、水辺林・緩衝帯予定地、河川沿いの土砂調整池、排水路合流部沈砂池、湿原流入部土砂調整池の整備状況、土砂堆積状況を見学。

教育分野における活用

○実施件数、参加者数、実施内容

事業地	件数	人数	活用主体	実施概要
達古武（森林再生）	22	280	標茶小学校、釧路湖陵高校、多賀城高校、釧路市生涯学習センター	森林再生の意味、取組みの学習、地表性昆虫、水の生き物調査等
達古武湖（湿原再生）	13	387	標茶小学校、富原小学校	課題、事業地での取組みの学習、湖の観察等
幌呂（湿原再生）	5	64	阿寒高校、下幌呂小学校、つるいっ子、JICA	事業地での取組みの学習、湿原植生、魚類、泥炭の観察等
茅沼（河川環境再生）	2	22	釧路国際ウェットランドセンター、JICA	事業地での取組みの学習、水生生物の捕獲、河畔林の林床植生、砂州の土壌を調査
久著呂（土砂流入）	1	6	JICA	事業地での取組みの学習

そのほかの活用事例

達古武湖（湿原再生）：環境コンサルタント株式会社主催行事 9名参加

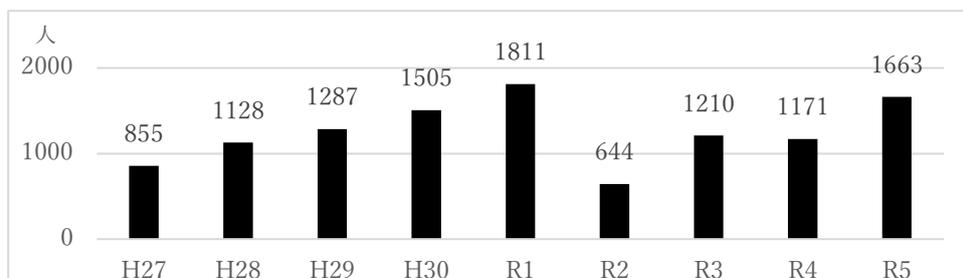
教育分野における釧路湿原の活用状況

流域市町村の学校における釧路湿原を活用した学習の実施状況

(学校アンケート実施結果より) ※年内にとりまとめを予定

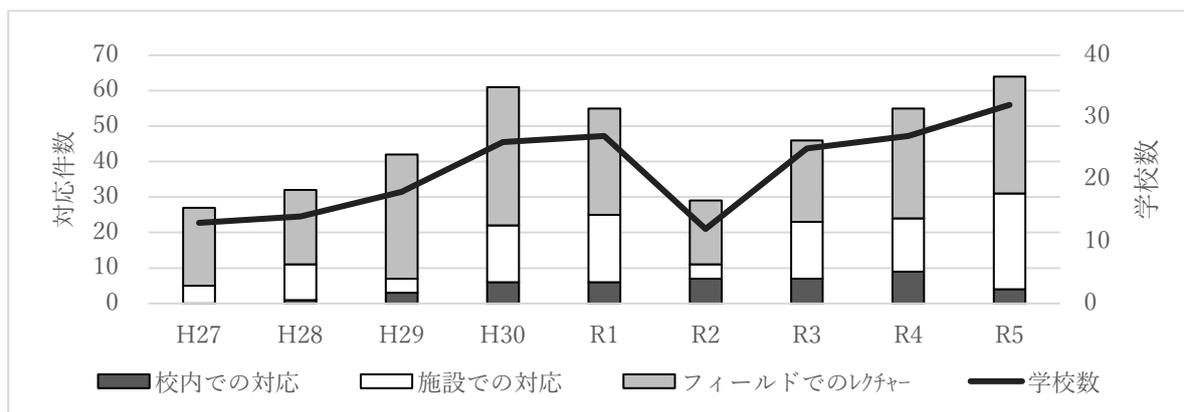
学校支援の状況

○対応人数



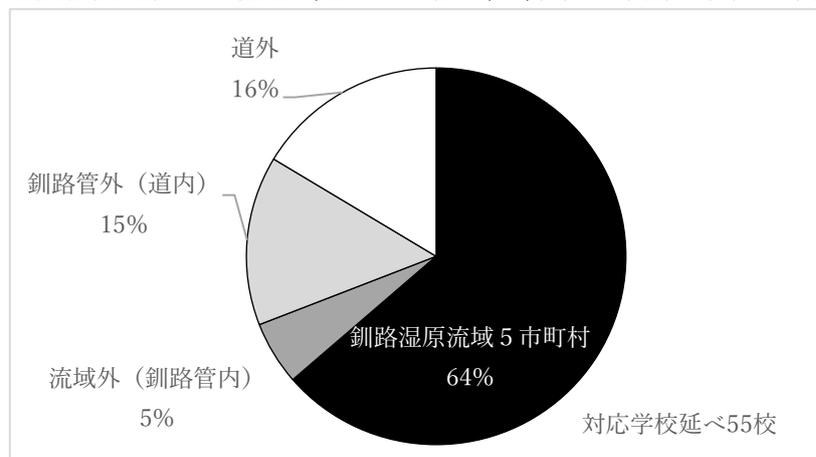
※温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンター、釧路湿原野生生物保護センターでの指導員等による対応含む

○学校数、対応件数



※温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンター、釧路湿原野生生物保護センターでの指導員等による対応含む

○支援実施校の所在地（地域別の割合）（令和2年度～令和5年度）

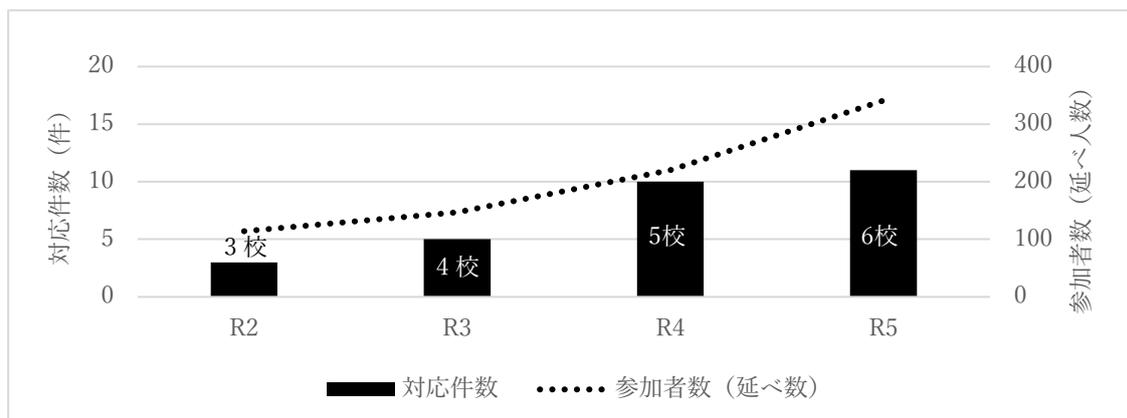


※釧路管外(道内)内訳：札幌4校、江別2校、帯広1校、中標津1校

※道外内訳：大阪2校、(以下各1校)宮城、福井、茨城、山梨、東京、福岡、ザンビア

モデル授業の実施状況

○対応件数、参加者数



○継続率（令和6年度）

- ・モデル授業実施校6校中5校（83%）が、モデル授業開始から継続して実施

○実施内容（令和6年度）

- ・訪問フィールド：温根内木道、右岸堤防湿原内、細岡展望台および周辺フィールド、達古武湖および夢が丘遊歩道
- ・実施概要：フィールド学習後、各児童がテーマを設定し探究的な学習を実施。
実施校6校中5校が2回以上フィールド学習を実施。1回目のフィールド学習で関心喚起を図り、2回目のフィールド学習で各自のテーマに沿った観察等を実施。

釧路湿原を題材とした学習発表会の取組み数

（学校アンケート実施結果より）※年内にとりまとめを予定

釧路湿原を題材とした研究論文等の発信数

○検索サイトにおけるヒット数（令和2年から令和5年） 延べ37件

発行年	R2	R3	R4	R5
ヒット数	13	6	7	11

※論文・報文等検索サイト CiNii Articles、国立国会図書館サーチ、J-STAGE において「釧路湿原」をキーワードに検索し、ヒットした論文の題名および抄録から釧路湿原との関連性が確認できたものを抽出

釧路湿原を題材とした研修等の実施状況

○教員研修講座 5件実施、75名参加（令和2年度から令和5年度）

○実施内容（令和2年度から令和5年度）

- ・オンライン講座タンチョウレスキューの現場から～釧路市動物園の取組み～ 11名参加
- ・オンライン講座生き物たちの命をつなぐ知恵～冬を耐え忍ぶ生き物を探そう！～ 14名参加
- ・環境教育の充実～地域とタンチョウのつながり（釧路教育研究センター共催） 9名参加
- ・体感！釧路湿原～植物群落と水の関係から湿原のしくみを学ぶ 9名参加
- ・環境教育の充実～キタサンショウウオ等希少種保護と脱炭素に向けた開発との共存（釧路教育研究センター共催） 32名参加

連携した取組みの事例（令和2年度から令和5年度）

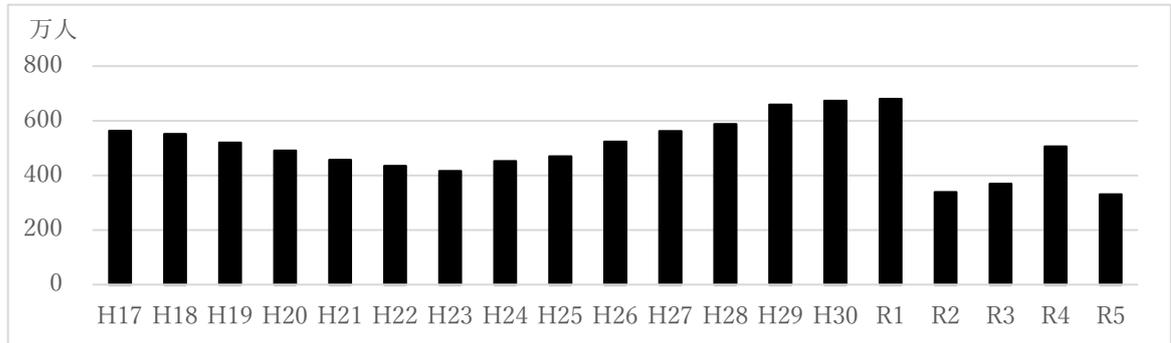
○ワンダグリーンダ・プロジェクト登録団体・個人と共同した普及
行事出展・企画展示 12 件、学習支援 18 件

○社会教育施設等と連携した湿原学習支援

フィールド学習支援 11 件、映像資料 32 種作成、成果発表等での助言 13 件、企画展示 18 件

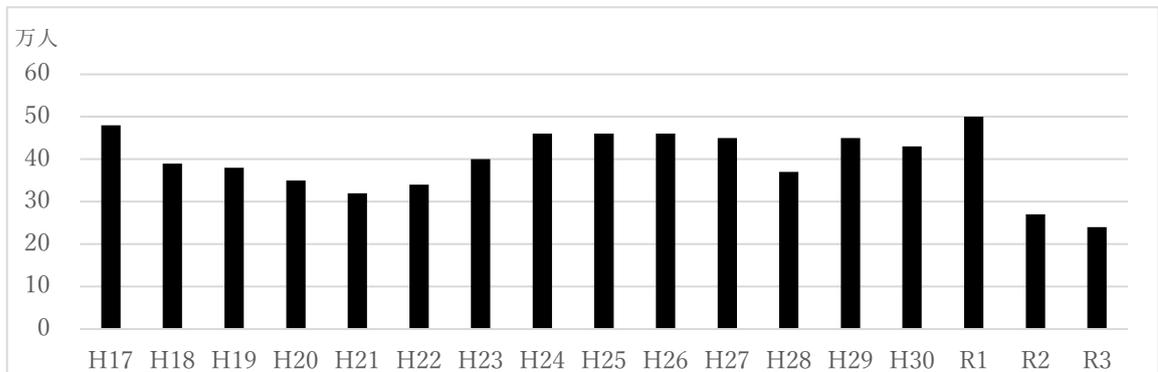
観光分野における釧路湿原の活用状況

流域5市町村の観光客入込数



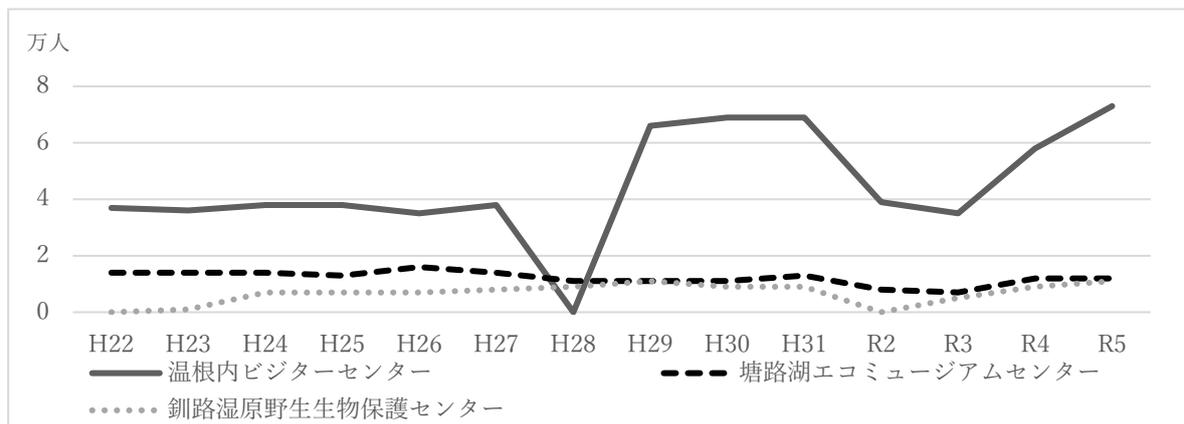
引用：釧路総合振興局 web サイト 産業振興部 商工労働観光課 観光入込客数・訪日外国人宿泊客数

国立公園利用者数



引用：環境省 WEB サイト 国立公園 法令・各種資料 自然保護各種資料

ビジターセンター等施設利用者数



※温根内ビジターセンターの平成 28 年度来館者数の減少は建て替えによる影響

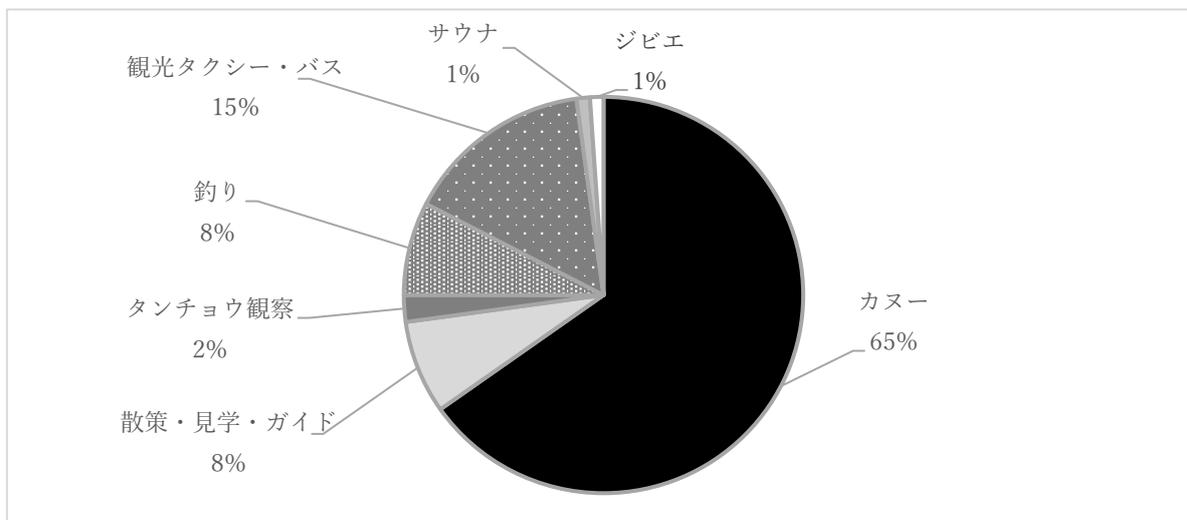
※釧路湿原野生生物保護センターの令和 2 年度来館者数の減少はリニューアル工事による影響

釧路湿原を訪問するツアー等の状況

○道外からの旅行ツアー 訪問先・内容

- ・展望地：釧路市湿原展望台、サテライト展望台、北斗展望地、コッタロ湿原展望台、細岡展望台
 - ・アクティビティ：釧路川カヌー、温根内木道散策、キラコタン岬トレッキング
 - ・タンチョウ観察：釧路市タンチョウ鶴自然公園
 - ・観光列車：ノロッコ号、貸切列車
- ※旅行代理店数社のWEBサイト（クラブツーリズム、H.I.S.、トラビックス（阪急交通社）、JMB ツアー）より検索。釧路湿原の訪問を含むツアーにおいて、行程表に記載された訪問先、活動を記載。（7月調べ）

○現地ツアーPRサイトにおける各ツアーの掲載割合



※検索を行った5サイト（釧路・阿寒湖観光公式サイト、VERTRA、たびらい、北海道体験.com、そとあそび）の観光ツアー掲載数（延べ数）における、各ツアー掲載数（延べ数）の割合。サイト間での重複を含む。
※散策・見学・ガイドの内訳：細岡展望台、サルボ・サルルン展望台、釧路市湿原展望台、釧路市湿原展望台遊歩道、夢が丘展望台

湿原の賢明な利用に向けたルールの認知状況

○釧路川保全と利用のカヌーガイドラインの普及

- ・釧路川カヌーネットワーク協会（令和5年度会員数：21事業者）による「釧路川保全と利用のカヌーガイドライン」の普及活動

釧路湿原国立公園のストーリーとの連携について

1 背景

- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置付けられ、国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図る取組みである国立公園満喫プロジェクトを開始（平成 28 年 3 月）。
 - ・先行・集中取組みを行う 8 つの国立公園での取組みの推進（平成 28 年 12 月～）
 - ・先行 8 公園の特徴・価値を整理したストーリー（※）集作成（令和 2 年 3 月）
 - ・先行 8 公園の成果の垂直・水平展開へ
- ※ストーリーとは、自然、暮らし、文化など地域の資源をつなぎ、その風景地の成り立ちや価値を伝えるもの

2 国立公園満喫プロジェクト基本方針

- ブランドメッセージ：その自然には、物語がある
- 提供する価値：多様な自然風景、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ることでの感動体験
- ブランドプロミス（全ての国立公園共通の管理運営指針/来訪者や地域への約束）
 - ・感動的な自然風景
 - ・サステイナビリティへの共感
 - ・自然と人々の物語を知るアクティビティ
 - ・感動体験を支える施設とサービス

3 釧路湿原国立公園ストーリー骨子（案）

核となるメッセージ：湿原と共にあり続ける地域

ストーリーを構成する時間軸と 2 つの視点：

- ①太古から現在までのものがたり

自然の営みの中で

- ・気候と地殻変動が育んだ広大な水平的景観（海跡湖、東が低い地形、高低差のない川）
- ・広大な集水域でのダイナミックな水循環、森と霧が育んだ湿原生態系（三日月湖、後退遷移、豊富な湧水、霧の恩恵）
- ・多様な生物のゆりかごに（タンチョウ、キタサンショウウオ、イトウほか）

人々の営み、社会との関わりの中で

- ・湿原と共にあった太古の人々（竪穴住居跡、貝塚）

- ・ 湿原の恵を享受してきたアイヌの暮らし（ベカンペ、様々な逸話）
- ・ タンチョウの再発見と保全のはじまり
- ・ 経済成長の中で（農地開拓、宅地化、治水、湿原開発計画）
- ・ 国立公園への指定（総合調査、開発6kmライン、ワイズ・ユースの考え方）
- ・ 地域が主導する保全へ（ラムサール締約国会議、NPOによる取組み、自然再生事業）

②湿原とともにある地域（現在のすがた）

流域の水循環が形づくる広大な湿原生態系・流域の自然

- ・ 流域の自然の特徴
- ・ 流域に生息する動植物

集水域での人々の営み

- ・ 生態系サービス
- ・ 湿原の保全と再生（課題、順応的管理、協議会の取組み）
- ・ 湿原を楽しむ（多様な行事、団体の取組み）
- ・ 湿原から学ぶ（学校教育での活用、社会教育・生涯学習での活用）
- ・ ワイズ・ユースの取組み

一次産業の営み（漁業・水産資源、酪農・乳製品）

湿原のスローな時間を楽しむアクティビティ